

平成 29 年

郡山市教育委員会

12 月定例会議事録

平成 29 年 郡山市教育委員会 12 月定例会議事録

日 時	平成 29 年 12 月 22 日 (金) 午後 1 時 30 分	
場 所	郡山市教育委員会室 (郡山市役所本庁舎 5 階)	
出席委員	委 員 長 阿 部 亜 巳	委 員 長 阿 部 晃 造 職務代理者
	委 員 今 泉 玲 子	委 員 太 田 宏
	委 員 藤 田 浩 志	教 育 長 小 野 義 明
出席者	教育総務部長 学校教育部長 教育総務部次長兼総務課長 学校教育部次長 ((併) こども部次長) こども部次長 ((併) 学校教育部次長) 生涯学習課長 中央公民館長兼勤労青少年ホーム館長 中央図書館長 教育総務部参事兼美術館長 学校管理課長 学校教育推進課長 教育研修センター所長 総合教育支援センター所長 教育総務部総務課長補佐 学校管理課長補佐	齋 藤 芳 一 柳 沼 文 俊 佐 藤 宏 鈴 木 弘 幸 伊 藤 綾 子 鈴 木 裕 一 橋 本 則 子 佐 藤 宏 之 佐 治 ゆかり 小 山 健 幸 早 崎 保 夫 村 上 文 生 大和田 正 恵 井 上 高 志 小 野 貴 裕
	書 記	濱 津 慎 一

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 前回議事録の承認
- 3 教育長の報告
- 4 議 事
- 5 そ の 他
 - (1) 公共施設等総合管理計画個別計画（素案）について
 - (2) 平成 30 年度学校給食調理業務・学校用務員業務委託について
- 6 各課報告
- 7 閉 会

委 員 長 只今から、郡山市教育委員会平成 29 年 12 月定例会を開会いたします。
はじめに、平成 29 年 11 月定例会議事録の承認についてですが、委員の
皆様、御意見等ございますか。

(なし。)

委 員 長 それでは、平成 29 年 11 月定例会の議事録を承認といたします。
次に「3 教育長の報告」をお願いします。

教 育 長 それでは、報告させていただきます。今回は 2 件報告いたします。
まず 1 件目は、「平成 29 年度 第 3 回郡山市立小・中学校長会議について」
です。今回の会議では、まず「学校経営の重点事項」ということで、「子ど
もたちの命を守る」、そして「子どもたちと教職員の健康を守る」という 2
つの視点について重点的にお話をさせていただきました。次に、「学校経営
ビジョンの再確認」ということで、教育研修センターにおいて実施しており
ます、学力向上対策について話をいたしました。教育研修センターでは、学
力向上の一助となる「10 分でできる！チャレンジシート」という教材を開
発しておりますが、会議では、この教材を活用した小中学校での取組みなど
について説明を行いました。なおこのシートは、教育研修センターのシステ
ムからダウンロードして使用できるものとなっております。次に、「小学校
英語教科化に向けた東北各都市の対応状況について」ということで、来年度
から移行期に入っていく小学校 3～4 年生、5～6 年生の英語時間数の確保
の状況について提示いたしました。さらに、本市の特別支援教育、あるいは

不登校の子どもたちのデータ等についても示しながら課題を共有したところでございます。郡山市における不登校者数は減少傾向となっておりますが、これについては、各学校でのきめ細かな取組みが少しずつ成果として表れているものと認識しております。

続きまして2件目は、「平成29年 郡山市議会12月定例会について」です。市政一般質問は12月6日（水）から12月11日（月）までのうち4日間行われ、11人の議員から合計61件の質問がございました。内訳は、教育総務部12件、学校教育部49件となっております。委員の皆様には一般質問の折、議会に出席をいただき、ありがとうございました。

以上でございます。

委員長 それでは「4議事」に入ります。

本日の定例会には提出議案がありませんので、次の「5その他」に入りたいと思いますが、御異議ありませんか。

（「異議なし」の声。）

委員長 次に「5その他」に入ります。

（1）「公共施設等総合管理計画個別計画（素案）について」事務局から説明をお願いします。

教育総務部次長 それでは、「公共施設等総合管理計画個別計画（素案）について」説明させていただきます。

現在、本市では、少子高齢化や人口減少社会などの社会状況の変化に対応すべく、市の所有する公共施設の今後の管理方法をカテゴリー別にまとめた管理計画を策定しております。このような中、12月1日から1月5日までパブリックコメントを実施する段階となりましたので、改めて素案の内容を委員の皆様にご説明させていただきます。お手元の「公共施設等総合管理計画個別計画（素案）について」をご覧ください。

まず、「1対象施設」についてですが、20類型に分類されているうち、教育委員会に係る部分は、公民館等が含まれております「集会施設」、「図書館」、湖南の少年湖畔の村が含まれております「集客施設」、さらに、メインとなる「学校」、美術館や給食センターが含まれております「その他の施設」となります。個別計画については、この20類型ごとにそれぞれ素案が作成されております。次に、「2計画期間」につきましては、総合管理計画が平成27年度から平成37年度までを一つの区切りとし、その後は10年

ごとのサイクルで計画を見直すという内容となっております。次に、「3内容」についてですが、詳細については素案の学校編を活用し後ほど具体的に説明させていただきますが、大まかには、「施設の現況と将来の見込み」と「施設類型別マネジメントの方針」についてまとめた計画となっております。次に、「4経緯・今後の予定」についてですが、現段階では住民説明会で出された意見の公表と、素案に対するパブリックコメントの募集を実施しているところであります。今後はパブリックコメントにより出された意見を参考に素案を修正し、最終的に来年3月末に個別計画策定・公表という予定となっております。

次に、各地において実施した住民説明会について説明いたします。これまで行政センター及び本庁管内で、計16回に渡って説明会を行ってまいりました。そこで出された教育委員会に関する主な意見について説明いたします。始めに「集会施設」に関する主な意見として、「公民館は、その役割から地域にあることが必要だ。」、「公民館について地域住民に限らず利用できるようになったが、民業圧迫にならないよう事業者利用には相応の負担を求めるべきではないか。」などの意見が出されております。次に、「学校施設」に関する主な意見として、逢瀬・田村地区から「生徒が減りきってしまう前に、早急に学校の統廃合をしてほしい。既に、生徒数が少ないために転居して町なかの学校に通うようになっている。このままだとさらに人が減る。」などの、学校の統廃合に関する意見が出されております。

次に、「郡山市公共施設等総合管理計画 個別計画（学校編）」について説明いたします。お手元の資料「郡山市公共施設等総合管理計画・個別計画（学校編）素案」の2ページをご覧ください。「第2章 公共施設等の現況及び将来の見込み」についてですが、まず「(1) 保有資産の状況」として、各学校の名称が一覧表で表してあります。さらに関連するデータとして、施設名称、建築年度、経過年数、構造、延床面積、耐震化の状況が記載されており、備考として、現在学校に学校以外の施設が入り、複合化されているか否かについて記載しております。学校施設における複合化については、放課後児童クラブを入居させるケースが多い現状にあります。西田地区の各小学校についても同様の記載がありますが、今年度で廃止される予定となっております。

次に9ページをご覧ください。「(2) 老朽化の状況」については、学校施設の老朽化の状況について記載しております。経過年数が50年以上のものが4.7パーセント、40年～49年が21.2パーセント、30年～39年が31.4パーセントということで、これらを合わせると、約6割が築30年以上経過しているという状況でございます。

次に、10 ページ「(3) 利用状況・利用見込み」についてですが、学校においては、将来的な児童生徒数の推移を利用見込みとして掲載しております。「利用状況(児童生徒数)」については、平成 24 年と平成 26 年の児童生徒数の比較を載せております。そして「利用見込増減率」として 2040 年(平成 52 年)の各地区の人口予測から児童生徒数の推移について推計し、増減率を載せております。少子化の影響から基本的に児童生徒数は減少傾向となる推計になっておりますが、富田小学校、富田西小学校、富田東小学校、郡山第六中学校、富田中学校、喜久田小学校、喜久田中学校については 2040 年(平成 52 年)には児童生徒数が増加しているという推計がされております。また、湖南小中学校については、現在より 80 パーセント以上減となるとの推計が出されております。

次に 14 ページ「(4) トータルコスト」については、学校の床面積 1 m²あたりの維持コストについて記載しており、光熱水費や修繕費、職員の人件費、減価償却費を含んだトータルコストが記載されております。小学校では、開成小学校や桃見台小学校、御館小学校下枝分校において校舎の大規模改修や耐震化工事を実施した結果、減価償却費が増加しており、トータルコストが突出して大きくなっております。中学校では、郡山第一中学校と郡山第六中学校が突出しておりますが、これも大規模改修工事を実施した結果、トータルコストが高くなったという状況であります。

次に、16 ページにあります「児童 1 人あたりのトータルコスト」についてですが、これについては児童生徒数が少ない学校において 1 人あたりのコストが高くなっているという状況にあります。

続いて、18 ページ「(5) 更新費用の推計」についてですが、この費用推計は学校を 60 年で建替えした場合に各年でどれだけの費用がかかるかを、総務省の更新費用試算ソフトで計算した費用の推計になっております。

次に、その下にあります「(6) 過去実績(投資的経費・維持補修費)の推移」については 2014 年度(平成 26 年度)まで載せてあり、右肩上がりで経費が上がっておりますが、これにつきましては耐震補強工事に注力し事業を実施した結果であります。学校の耐震化には国も力を入れて実施しておりましたので、このような結果となっております。

次に 19 ページをご覧ください。施設管理マネジメントを今後どのように行っていくかについて説明いたします。「第 3 章 施設類型別マネジメント方針(3) 今後の施設のあり方」についてですが、学校施設につきましても「施設の長寿命化」を目指すという方針となっております。これまでの目標使用年数について、大体 50 年～60 年という目安がありましたが、それを今後は 80 年まで延ばそうというものであります。長寿命化工事を適切な

時期に行い、ある程度年数が経過した時点でリフォームを実施し、最終的には使用年数を 80 年まで延ばしていく考えでございます。この方針により今後かかる費用をシミュレーションしたところ、長寿命化をしない場合に約 5,193 億円かかるところが、長寿命化を実施することで約 4,292 億円となり、901 億円削減できるという試算がなされております。なお、全ての学校施設を長寿命化することが理想であると考えますが、長寿命化を図れる施設とそうでない施設がありますので、今後はそのあたりを慎重に見極めてまいります。基本的に新築は行わないという方針で施設を管理していきたいと考えております。また、20 ページにあります「③施設の最適化」について、学校施設の総延床面積は、市の公共施設の延床面積のうち 40 パーセントを占めるものでありますことから、学校施設においても複合化を見据えていかなければならないと考えられます。今後は、公民館を学校施設に入居させるなど、施設の有効活用と市全体の施設の縮減を図っていく内容になっております。

次に 21 ページ、「(4) 個別施設方針・検討開始年度」についてですが、これは個別方針の検討開始年度とそれ以降のフローを示したものであります。

最後に、具体的に個々の学校が今後どのようなようになっていくかということについて、「個別施設方針」として記載しております。

説明は以上となりますが、その他の集客施設、集会施設、図書館その他の施設についても基本的にはこれと同じような作りで構成されております。以上でございます。

委員長 委員の皆様、質問等ございますか。

阿部職務代理者 「(3) 利用状況・利用見込み」について、「利用見込増減率」とありますが、これは何年に対して何年の見込みを記載したものでですか。

教育総務部次長 2016 年(平成 28 年)と 2040 年(平成 52 年)を対比した数値となります。

教育総務部長 喜久田小学校、喜久田中学校の利用見込増減率が 42 パーセント、54 パーセントと非常に高い数値になっていますが、これについては喜久田町の行政区内において区画整理事業が実施された結果、人口が統計上喜久田小学校、喜久田中学校の方に分類されてしまうためこのような数字になっております。しかし、区画整理事業地内の実際の学区は、富田東小学校、富田中学校となるため、喜久田小学校、喜久田中学校についてはこれほどの増

加はないものと考えられます。学区ではなく行政区で捉えている部分もありますので、富田東小学校の児童数が喜久田小学校に入ってしまったという状況です。

藤田委員 「保有資産の状況」のうち、「施設一覧表」にある経過年数は、建築年度を基準としていると思うのですが、これは共用開始の時期ですか、それとも建築が完了した時期ですか。

教育総務部次長 基本的に学校が始まった年度だと認識しておりますが、開成小学校のように改修が入っている学校は、今の建物ができた年度が記載されております。

委員長 今回御説明いただいたこの公共施設の計画は建物に着目した計画だと思うのですが、学校については建物の老朽化はもちろんですが建物についてだけを議論するのではなく、地域の子どもの減少に対して、校区の再編や適正規模・適正配置といった部分の議論と並行して進めていく必要があると感じます。実際今、校区の審議をしている審議会等もあるかと思うのですが、その会議等の議論と、この公共施設の計画の整合性についてはどのように図っていくことになりますか。

教育総務部次長 「現状分析」のうち、「サービス」の欄に、Ⅱと記載がある施設は利用状況に課題があるということで、小規模校などにおける利用は今のままでは課題があり、今後統廃合を考えていく必要があるということです。しかし、これらについては単純に老朽化を迎えたからといって長寿命化をするのではなく、その前にこれらの課題の解決を図っていかなければならないので、そういった審議会の動向も踏まえて考える必要があると思われま。

委員長 その他質問はございますか。

(なし)

委員長 次に(2)「平成30年度 学校給食調理業務委託・学校用務員業務委託について」事務局から御説明をお願いします。

学校管理課長 それでは、「平成30年度 学校給食調理業務委託・学校用務員業務委託について」御説明します。

学校給食調理業務委託につきましては、8月の定例会において給食センターの条例の一部改正を行った際に、親子方式について述べさせていただきました。改めて概要を申し上げますと、来年度につきましては、西田学園義務教育学校で新規委託ということで調理業務委託を進めていく予定でございます。これに合わせまして、白岩小学校の給食を西田学園義務教育学校で調理し、それを配送するという親子方式を採っていきたいと考えております。委託校選考の方法としましては、退職者不補充方式の考え方により、来年度は西田学園義務教育学校と白岩小学校の2校を新規委託校ということで進めていきたいと考えております。委託実施校数ですが、来年度はこれら2校を含めまして、今年度までの26校と合わせて合計28校で委託を実施してまいりたいと考えております。

学校用務員業務委託につきましては、来年度の新規委託校はございません。委託校選定の方法としましては、学校給食調理業務と同様、退職者不補充方式の考え方により、毎年度業務委託を実施しているところであります。来年度につきましては、今年度、定年退職をする職員が教育委員会の3名のみであり、西田学園義務教育学校の開校に伴う学校の統廃合によって、高野小学校、鬼生田小学校、大田小学校が来年度から市職員の配置先ではなくなりますので、これらの学校に在籍する学校用務員3名分を充てることとなります。平成30年度は、今年度委託している58校から、廃校となる三町目小学校、根木屋小学校を引きまして、小学校33校、中学校23校の合計56校で委託を実施したいと考えているところでございます。

以上でございます。

委員長 委員の皆様、質問等ございますか。

(なし)

委員長 それでは次に、「6 各課報告」にまいります。

(各所属、下表案件について報告。)

No	所属名	件名
1	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回社会教育委員の会議について ・明るいまちづくり先進地視察について ・公民館職員専門研修について

		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年成人のつどいの開催について
2	中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット講座について ・転入女性のためのはやまーゼ教室について ・市民学校について ・四季の風コンサートについて ・青年サンタ隊について ・編物講座、染色講座について ・郡山市総合美術展について ・こおりやま邦楽の祭典について ・郡山ピアノ指導者協会第 20 回演奏会について
3	中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の読書週間関連行事「生誕 150 年正岡子規展」の実施報告について ・読み聞かせボランティアステップアップ講座の実施報告について ・読書フォーラムの実施報告について
4	美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・館外展「日英風景の競演—湖南の自然とともに」について ・アートカフェ⑤について ・アートカフェ⑥について ・久米邸アートトークについて ・アートバザールについて ・ワークショップ「どんぐりからはじまる染色」について ・文学×美術講座「描かれた万葉の世界」について ・12 月企画展示室天井工事開始について
5	教育研修センター	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月研修講座等の実施状況について
6	総合教育支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小連携推進事業 第 5 回幼保小合同研修会について

委員 長 その他、事務局から何かございますか。

(なし。)

委員 長 以上で、平成 29 年 12 月定例会を閉会いたします。

終了時刻 午後 3 時 00 分